

令和7年2月8日

世田谷区立駒繫小学校

校長 佐々木 克二 様

世田谷区立駒繫小学校

学校関係者評価委員会

学 校 関 係 者 評 価 委 員 会 報 告 書

1 調査の実施方法

(1) アンケートの作成・配布（令和6年11月中旬）

＜対象＞・児童（全学年） ・保護者（全学年・児童数） ・地域（町会/その他）

(2) アンケート実施（電子回答）回収（締切り：令和6年12月9日）

(3) 校内においてデータ集計作業（令和6年12月20日完了）

(4) 職員会議で、集計結果に関する数値傾向からの課題を共有した。（令和7年1月7日）

(5) 学校関係者評価委員会（令和7年1月18日）

令和6年度学校関係者評価アンケート結果を校長より報告。集計結果の概要を確認し、検討事項等について共通理解を図った。

(6) 学校関係者評価委員会（令和7年1月下旬）

各委員より、集計結果の数値傾向を踏まえ意見を出し合い、課題を検討した。

(7) 学校関係者評価委員会（令和7年2月3日）

委員会にて指摘のあった点を取りまとめ、修正・追加・削除を行い、報告書の原案を作成した。

(8) 学校関係者評価委員会（令和7年2月8日）

学校運営委員会にて、学校関係者評価概要説明。各委員と報告書の最終的な確認を行った。

2 アンケート結果の分析

- 保護者回収率 74% (373名)
学年回収率 第1学年：89%、第2学年：88%、第3学年：71%、第4学年：69%、
第5学年：73%、第6学年：60%
○地域回収率 43% (18名)

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
これまでの学校関係者評価アンケート（児童対象）は5、6年生での実施であったが、今回のアンケートから、全学年の児童が回答することになった。これにより、児童の回答が全校児童によるものであると同時に、各学級の担任が自身の学級の評価を受けることが可能となった。各学級の担任が1年間取り組んできたことの成果と課題がアンケートにより明確となり、このアンケートがより有意義なものになっていると感じる。 一方保護者の回答率は、学年が上がるごとに下降する傾向がある。保護者の回答率が更に上がるよう、来年度も回答のご協力をいただきたい。

【令和6年度 学校の重点目標の達成について】

※ アンケート結果のパーセントは、A（とても思う）B（思う）の評価の合計を示す。

《1》重点目標に「思いやりのある やさしい子」を位置づけ、気持ちのこもったあいさつがあふれる学校づくりに取り組みます。

◎ 保護者・児童・地域のアンケートより

- 【保護者】 私の子どもは、よくあいさつをしている。 73%
【児童】 私は、すすんであいさつをしている。 90%
【地域】 本校の子どもたちは、よくあいさつしている。 89%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
児童の肯定的評価は90%で高い評価を得た。保護者の評価は73%であった。地域からの評価は89%であった。あいさつは重点目標でもあるので、今後も挨拶の取り組みを継続してほしい。

《2》「教員のいないところには、子供はいない。子供がいるところには、教員がいる。」を教職員の安全管理目標とします。

◎ 保護者・児童・地域のアンケートより

- 【保護者】 学校は、安全な学校づくりを進めている。 84%
【児童】 私は、安全に気を付けて生活している。 94%
【地域】 学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。 100%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
児童、保護者、地域どの評価者も極めて高い評価であった。引き続き安全・安全な学校づくりを目指してほしい。

《3》「いじめ0（ゼロ）」をめざして、いじめ未然防止・早期発見・解決に取り組めます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

- 【保護者】 私の子どもは、「いじめをしない させない 許さない」ができています。 91%
【児童】 私は、「いじめをしない させない 許さない」ができています。 89%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
「いじめ」に関しての肯定的評価は児童 89%（A評価 56%+B評価 33%）、保護者 91%（同 34%+同 57%）と高い数値を示している。今年度は大きないじめに発展する状況はないとのことなので、引き続き適切な指導をしていただきたい。

《4》「こまつなぎスタンダード2024」を策定し、学習・生活指導の充実に取り組みます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

- 【保護者】 本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもが理解している。 78%
- 【児童】 私は、学校のきまり（スタンダード等）を守って、行動している。 90%
- 【保護者】 本校は、学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもに考えさせる指導をしている。 71%
- 【児童】 学校のきまり（スタンダード等）を守らない児童に先生は注意している。 92%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
「児童の行動」に関する肯定的評価は児童 90%、保護者 78%となり、学校のきまりなどの学校生活のルールや学習上の決め事に対する規範意識は高いと言える。「こまつなぎスタンダード」は今年度からスタートしたにもかかわらず、保護者にも広く浸透してきている。教師の指導面での児童の評価は 92%と、指導の一貫性や公平性については常に留意していることが伺える。今後も継続した指導をしていただきたい。

《5》緊急時の対応体制の強化を図ります。

◎ 保護者のアンケートより

- 【保護者】 本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している。 85%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
保護者から高い肯定的評価（85%）を受けている。昨今日本各地で地震が観測されていることから、今後も災害に対する意識は高まることが予想される。さらに保護者や地域との連携を密にして災害への備えをしてほしい。

《6》「授業改善×iPad “教える” から “学びとる” へ」をテーマに校内研究（研修）に取り組めます。

◎ 保護者・児童のアンケートより

- 【保護者】 本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている。 82%
- 【児童】 先生は、課題（めあて）について自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業中に取っている。 94%
- 【保護者】 本校は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。 81%
- 【児童】 先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。 94%

学校関係者評価委員会からの指摘項目（改善された点も含む）
2項目とも90%以上という児童の肯定的評価である。保護者評価も追随している。自らが学習の目標設定を行い、仲間と協働して学習に取り組む様子が想起され、タブレットを効果的に活用した、主体的で深い学びの場が設定されていることが理解できる。

【各アンケート項目について】

1 学習指導について

児童・保護者ともに肯定的評価が高い。特に「本校は映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」の肯定的評価が児童94%、保護者92%と高い数値である。映像やタブレットを活用した児童にとって楽しい学習が展開されている。なお、本項目の児童の回答は、5つ全てが87%以上の高い肯定的評価を示しており、話し合いや発表など、自分の考えを共有できる授業が充実していることが伺える。

2 生活指導について

児童はどの項目に対しても肯定的評価が90%以上と高い数値である。児童は学校のきまりを守って生活できており、きまりを守らない児童には、きちんと先生の指導が入り、その指導は児童の納得が得られるものになっていることが伺える。保護者の「本校は、学校での過ごし方やルール（スタンダード等）について子どもに考えさせる指導をしている」の肯定的評価が71%に対して、「分からない」と回答した保護者は17%である。本校の生活指導について、保護者にも発信して周知していく必要がある。

3 学校行事について

運動会は児童鑑賞日（白熱DAY）と保護者鑑賞日（楽しむDAY）の2日開催、学芸会は今年度より学習発表会（駒秋シアター）と形を変えての学校行事だったが、どちらも感動的であった。児童の「学校行事が楽しい」は肯定的評価が91%、「学校行事は、達成感がある。」は90%となり、児童が達成感を味わっている。本番に至るまでやる気を継続して取り組んでいて、高く評価できる。

4 キャリア教育について

「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」の肯定的評価が児童は75%であるのに対し、「本校では、子どもの生き方や将来のことについて考える授業をしている。」の保護者の回答で「わからない」と回答した保護者は30%と比較的多いといえる。キャリア教育について学習したことが、知られていないことが低い数値につながっていると考えられる。また、5・6年生児童対象の「区立中学校に関する情報が提供されている」の回答で「分からない」を選択した児童は26%であるため、学び舎での小中連携の取り組みを周知していく必要がある。

5 先生について

児童の「先生たちは、丁寧に指導してくれる。」の肯定的評価が96%、保護者の「本校は、丁寧に指導している。」の肯定的評価は86%となり、授業を受けている児童の評価が高いのは歓迎できる。保護者の評価は自身の子どもだけを見て評価しているという側面があるにしても、丁寧な指導がなされていると捉えられる。

また、児童の「先生たちに相談できる。」の肯定的評価が88%、保護者の「本校は、子どものことを相談しやすい。」の肯定的評価は77%となった。「相談できる」ということは教員との信頼関係が構築されていることを示している。ただし、否定的評価が児童9%、保護者に17%いることに目を向け、相談しにくいと感じている児童や保護者が一定数いることを忘れず、引き続き丁寧に対応していくことを心掛けてほしい。

6 全般について

学校生活について、児童の「学校生活は、楽しい。」の肯定的評価が92%に対して、「学校が好き。」の肯定的評価は86%であった。「学校が楽しい」から、「学校が好き」な訳ではない。また、「学校が好き」の否定的評価が11%という結果にも目を向ける必要がある。

学び舎について、児童の「学び舎の中学校に行ったり、中学生が来たりする機会がある。」の肯定的評価は63%にとどまり、小中連携は、中学校部活体験や合唱交流など、このアンケートが実施された後の3学期に行われるものが多いため、児童の経験として印象が薄いものと思われる。

7 学校からの情報提供について

地域の「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」の肯定的評価は95%で、地域からの肯定的評価が高い。肯定的評価が高いのは、学校だよりやホームページ等で情報を発信している結果ではないか。

学び舎についての情報提供について、保護者の「学び舎の区立幼稚園・中学校についての情報が提供されている。」の肯定的評価は40%、地域の「学び舎の活動について、情報が提供されている。」の肯定的評価は66%となり、学び舎に関しては数値が低くなってしまう。学び舎についての情報提供のさらなる充実を図る必要がある。

8 学校運営について

保護者の「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」の肯定的評価は79%、「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価は85%と比較的高い数値となっている。管理職をはじめ、教員たちの意欲が数値に表れている。今後も継続して教育活動に取り組んでいくことで保護者にもより周知され、肯定的評価は更に上がるものと思われる。

9 家庭と学校の連携について

保護者の「私は、学校公開にすすんで参加している」の肯定的評価は91%であり、「私は、学校行事、PTA活動や地域行事などにすすんで協力している」の肯定的評価は70%となった。「参加」はしているが、「協力」しているかどうかを問われると、低くなってしまわないか。

学校重点目標について、保護者の「私は、今年度の重点目標を理解している。」の肯定的評価は55%であった。「本校は、保護者に学校の重点目標を伝えている。」の肯定的評価は79%と数値

が高いものの、それを理解しているかについては数値が低い。「子どもが通う学校が何を目標しているのか」について理解する努力が保護者に求められている。

1.0 地域との連携について

保護者の「本校は、地域に情報を提供している。」の肯定的評価は54%、「分からない」の回答が35%となった。保護者も地域の人であると考え、保護者に対する情報発信と地域に対する情報発信はイコールの部分もある。

地域との連携で想起すると、高齢者・車椅子体験、避難所運営訓練やドッジボール大会、駒繫フェスタ等、地域との連携を強化できる取り組みも行われている。

1.1 学校の安全性について

保護者の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価が84%、地域の「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている。」の肯定的評価が100%となり、保護者・地域ともに肯定的評価が高い。4月当初の校長による説明がしっかりなされ、理解されていると言える。また、地域の方も横断歩道に立つなど、学校と地域が一体となって児童の安全を見守っている。

1.2 学校独自目標

学校の重点目標である「あいさつ」について、児童の「私は、すすんであいさつをしている。」の肯定的評価は90%であった。地域の「本校の子どもたちは、よくあいさつをしている。」の肯定的評価は89%となった。地域の数値が高いのは、回答者に日常的に児童と交流のある方が多いからであると考えられる。

また、児童が「私は、自分と友達を大切にしている。」の肯定的評価が94%と高いのは素晴らしいことである。学校が児童の自己肯定感、達成感、有用感を育てようとしている結果と考えられる。「あいさつ」は低学年からの積み上げが大切なので、これからも継続して指導していただきたい。

「いじめ」について、児童の『私は、「いじめをしない させない 許さない」ができています。』の肯定的評価が89%、保護者の『私の子どもは、「いじめをしない させない 許さない」ができています。』の肯定的評価が91%となり、「いじめ」に関しての意識が数値に表れている。自分の子だけを見るのではなく、学校としていじめがないことに対する数値として高い。学校組織としてのいじめ対応が機能していることが表れている。

3 総評

アンケートの集計結果から、学校の状況は良好であり、特に重点目標についてはほぼ90%の肯定的な評価もある。学校と児童・保護者・地域が協力して各目標に取り組んだ結果、高い評価が得られ、駒繫小学校の教育活動への期待や信頼が高いことが考えられる。また、重点目標以外の項目に対する評価も高く、特にICT関係において高い評価を得ており、引き続き先生方の努力を維持していただきたい。

先生方はアンケート結果を活用し、成果と課題を考察して改善点を見つけ、教育活動に生かしている。この努力が学校の実績を向上させ、子どもに対する丁寧な対応につながると考える。今後も学校からの積極的な情報発信で保護者の理解が深まると、次年度のアンケートにも良い影響を与

えるものとする。

最後に、今回の学校関係者評価アンケートにご回答いただいた保護者、地域の皆様に感謝申し上げます。次年度もより多くの回答が集まるよう、引き続きご協力をお願いいたします。

令和6年度

世田谷区立駒繫小学校

学校関係者評価委員会

委員長 齋藤 潔

委 員 菅原 美智子

委 員 加山 寿絵

委 員 石綿 理映子